

景観まちづくり通信

# 銚子のまち歩き

(旧)西廣家住宅【治郎吉】 所在 銚子市川口町1丁目6271番地



景観まちづくり委員会  
出堀 義夫



▲山側から主屋を見る・作業庭をはさみ洋館は缶詰工場

なるべく自分の足で歩きこの目で確かめる。

個々の建物よりは複数の建物と周辺環境との関係を探る。

情報の垂れ流しを避ける意味で、1枚の写真やスケッチに集約して報告するなど自分に言い聞かせながら千葉の醤油のまちの銚子を一人で訪れた。

ヤマサ本社の工場の向いのアールデコ風の飾りのある銚子図書館を写真に撮っている建築青年がいたので声をかけると、ほかにも古い漁業の民家が日曜日のみ公開されているという。距離は少し遠めだが、まち歩きかねて聞いた旧西廣家のある山口町に向かう。

海岸線から幾分高台の、後ろは樹木で覆われた小高い丘に囲まれた広い敷地である。高台側には漁具などが入っていた江戸時代の倉庫、広い作業庭を中庭に囲むように倉庫や主屋が配されている。

本家と缶詰工場は合体され、作業庭を挟むように倉庫や主家が配置され船主としての営為が感じられる。

主屋わきに増築された洋風の製缶工場の中はよく見ると内部は黒ずんだ丸太のトラス梁(キングポストトラス)で構成されている。

主屋との接合部は柱・梁が腐朽したと見え、新たな材木でつながれている。この部分にはトップライトから陽光が差し込み新旧の素材がはっきり対比されて明快である。

古い船主の遺構だが、製缶工場などの時代の流れもわかり、漁業のまち銚子の中でもこのような集合した遺構は貴重だが、今後洋風の製缶工場は地元のまちづくりや郷土に関心がある人が主体になって、現状の空間を生かしながら中庭と連動してアトリエ・演奏会・展示会などの場として利用も考えられる。

国登録の有形文化財(建造物)に平成30年に制定されている。



▲旧西廣邸の缶詰工場あと奥側の主屋との関係



▲海岸に向かって傾斜した敷地のスケッチ